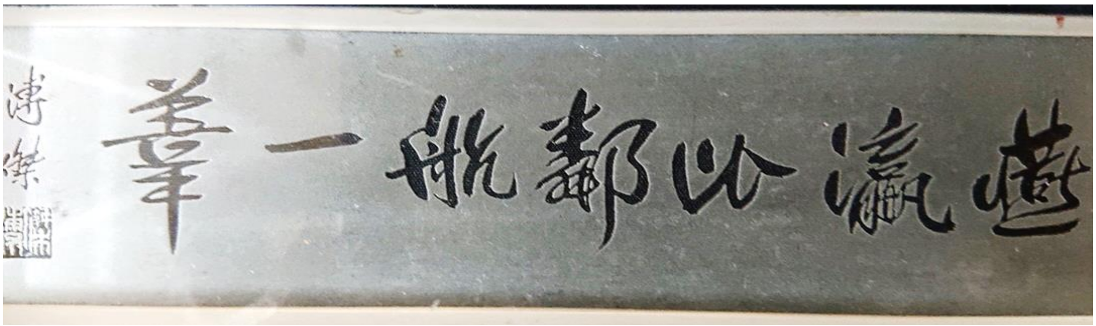
日中友好新聞 京都府連版

第３３０号

日中友好協会京都府連合会　〒602-8026 京都市上京区新町通丸太町上ル　機関紙会館ビル３０２号
TEL＆FAX　075-256-2764　nichukyoto.com　info@nichukyoto.gr.jp



「燕瀛比鄰航 一葦」――日中友好の思いを載せた愛新覚羅溥傑の言葉

宇野木　洋
（日中友好協会京都府連合会会長・立命館大学特命教授）

昨年の嵐山「日中不再戦」碑前集会（二三年九月十六日）における会長挨拶では、ラストエンペラー愛新覚羅溥儀の弟・溥傑（1907～94年）が揮毫した「反戦 平龢［和］ 親鄰 友好」という書が、リニューアルされた立命館大学国際平和ミュージアムに飾られていることを紹介した上で、この八文字は、まさに日中友好運動の神髄を端的に示していると思うと語ったのだった（『友好新聞・府連版』第327号に書の写真も掲載）。その際にも少し言及したのだが、実は私は、九四年三月七日に北京・八宝山革命公墓大霊堂で挙行された溥傑の葬儀に、当時、天津で在外研究をしていたこともあって、大学代表のアテンドを命じられて参列しているのである。今から思うと、中国の要人（溥傑は、全国人民代表大会常務委員会委員、同民族委員会副主任、中日関係史研究会副会長）の葬儀に参列するという、本当に貴重な経験だったと改めて実感している。

ところで、その会葬御礼として、書家としても著名な溥傑の筆致で「燕瀛比鄰航一葦」と刻まれたガラス製の文鎮をもらったのだが、文字も意味もなかなか読み取りにくい部分もあって、三十年近く放ったままだったことを思い出した。今回、何とか読み解けた（中国人の友人の援助もあったことは白状するしかない）ので、内容を紹介しておこう。――「燕」は古代の戦国七雄の一国で、現在の河北省北部・遼寧省南部つまり北京の周辺地域に位置していたため、北京の古称も「燕京」である。つまり「燕」は中国を象徴すると考えてよいようだ。「瀛」は海の意だが、日本を「東瀛」とも呼ぶこともあり、また「比鄰」はもちろん、近隣に位置するとの意味である。「葦」はしばしば小さな舟に喩えられ、古詩にも「航一葦」（小舟が航行する）という表現が稀に見られるらしい。即ち、「燕瀛比鄰航一葦」は、「日本と中国は近隣にあり小舟が行き来する」といった意味になるようだ。最後まで日中友好交流の架け橋になろうとしていた溥傑の思いが伝わって来るのではないだろうか。

私としても二〇二四年を、「燕瀛比鄰航一葦」の精神をしっかりと受け止め、かつ実践していく年にしていかねば、と改めて考えている。本年も何卒よろしくお願いします。

（溥傑と立命館との関係などについては、立命館孔子学院HP掲載の学院長コラム『考えてみチャイナ・中国のこと』の「その84～86」で詳述しているので、参照いただけると嬉しく思います。）

河北省・平山県　中山王国の龍（紀元前四世紀）

初冬の般若寺を訪ねて

十一月二十六日（日）、宇治支部主催の見学会には、留学生を含む約十名の参加者が般若寺（奈良市）を訪れました。

般若寺は、飛鳥時代に創建された真言律宗の寺院で、天平七年（七三五年）には聖武天皇が平城京の鬼門を守るために『大般若経』を塔の基壇に収め、卒塔婆を建てたことが寺名の起こりとされています。

また、般若寺には、奈良女子高等師範学校（現・奈良女子大）の学生だった長谷川テルさんが一九三二年四月三十日、般若寺を学友と訪れ「抑圧的・閉塞的な社会のありようと闘おう」と誓い合ったことなどを刻んだ「長谷川テル訪問記念の碑」石碑が残されています。長谷川テルさんは、エスペランチストで抗日運動家として活躍された方で、日中友好史を語る中でも欠かすことができない方です。

境内には約十五万本のコスモスが植えられており、「コスモス寺」とも呼ばれています。このコスモス畑の始まりは、寺の現住職が約五十年前、境内で一輪のコスモスが咲いているのを発見したことがきっかけです。それ以来、毎年、心地よく過ごしてもらうために手入れを欠かさず行い、コスモスを育てているとのことです。

訪れた日は晩秋であり、コスモスは満開ではありませんでしたが、色とりどりの花が境内を彩り、訪れた人々を楽しませました。当日は、住職の案内の後、長谷川テルさんの石碑の前で、府連の西田さんから「長谷川テルさん」についての詳細な説明を受けました。

今回の見学会に参加した参加者からは、「コスモスの花が美しく、心が癒されました」「長谷川テルさんの石碑を訪れて、日中友好の大切さを感じました」といった感想が聞かれました。

宇治支部では、今後もこのような見学会を開催し、会員の皆様との交流を進めていく予定です。（上村）

京都府連＆宇治支部合同

春節のつどい

2月17日15：00～17：00

（チラシは1/15号に折込します。）

上海旅游―(3)

『ビザ・電子マネー・交通』

石橋美紀

コロナ禍が終わりやっと観光旅行が解禁になったと聞いて、この夏、中国旅行を計画することにした。以前、日本人は二週間以内はビザ不要、自由に行くことができたのだが、コロナ禍以降、この制度は再開していない。あわてて7月上旬にビザ申請をしようとしたら、オンライン予約は八月二十五日まで埋まっているという。仕方なく予定を一か月伸ばし、飛行機とホテル予約をやり直して、再度挑戦した。

大阪ビザセンターへ行ってみると、応対はとても親切だった。すぐに手続きが済み、一週間後、無事に観光ビザを手に入れることできた。調べてみると中国側から観光目的で入国する場合は、元々ビザフリーではなかったし、用意する書類も我々より大変なのだそうだ。つまり日本側の入国制限のほうが厳しいのである。はやく相互のビザフリーが実現してほしいものだと思う。

久しぶりの中国旅行、お金をどうしようかと困っていた。中国は電子マネーが普及しており、生活の全ての場面で紙幣を使うことがない。露天市場でもQRコードをかざして支払うのだという。使われるのは支付宝（アリペイ）、微信支付（ウイチャットペイ）の二つ。どちらも日本人の口座からは入金できないので、日本在住の留学生に頼み、支付宝へ中国元を送金してもらい、現金も五百元ほど入手した。

さて準備万端整った。上海の浦東空港のスタバでコーヒーを飲むところから、さっそく支付宝で支払いができて便利だった。法律上は現金の受け取り拒否はできないと聞いていたけれど、あるホテルで三百二十元の支払いに紙幣を四百元出すと、小銭がないと断られた。小銭を使ったのは、公園でアイスを買った時ぐらい。

上海の街歩きに便利だったのは、スマホに入れた支付宝と、高徳地図という地図アプリ。高徳地図で現在地から目的地までの交通機関を調べ、それを見ながら、バスに乗ったり地下鉄に乗ったりできるのだ。写真は魯迅公園から浦城路浦電路まで行った時の例である。指示通りバス停で待っているとバスが来る。京都市バスと同じく、バス停にバスの運行状況が表示されていて、安心感があった。バスに乗るときは小さなカメラにスマホを当てれば、支付宝で支払いが済む。地下鉄の場合も、乗車時と降車時に自動改札に当てるだけだった。便利なアプリのおかげで、いたるところへ簡単に独り歩きができたのは、とても有難かった。（中国語教室・火曜日受講生）

《中国伝統劇つれづれ》第八回
「周信芳の『徐策跑城』」
藤野 真子

「いちばん好きな演目は何か」と訊かれたら、答えに窮してしまう。誰が演じるか、その日の出来はどうかなど、条件によって答えは異なる。結果、「某某の演じた『〇〇』が良かった」と答えざるを得ない。敢えて挙げれば、麒麟童こと周信芳（一八九五～一九七五）の『徐策跑城』であろうか。

上海京劇を代表する老生・周信芳は、一九一〇年代から本格的な活動を始め、中華人民共和国建国後は伝統劇界の頂点として梅蘭芳と並び称された。最近はご無沙汰だが、修論から三十年、筆者と周信芳との付き合いは長い。なお、彼をテーマに選んだ理由は失念した。別テーマで書いた修論をリジェクトされたため、資料の探しやすいネタを探したのだろう。恩師も、これほどの大物なら関連資料には困らないと見ていた節がある。ところが、同時代の演劇雑誌をめくっても周信芳への言及は少なく、北京の京劇俳優に関する記事が大勢を占めていた。やむなく近隣の大学に通い、上海最大の日刊紙『申報』の重たい縮刷版を二十年分ほどひっくり返して周信芳関連の劇評や広告をかき集め、ようやく論文の体裁を整えた。

幼少期から舞台に立っていた周信芳は、変声を経て、老生としては致命的な嗄れ声の持ち主となった。もっとも、規範に囚われない上海を活動拠点としたことでその声は個性と認識され、加えて身のこなしや表情を重視する「做工老生」たることに比重を置くことで、演劇界における地位を確立する。その代表作の一つが『徐策跑城』で、周信芳自身の映像はもちろん、今日でも麒派（周信芳の流派）演目の上演会で、後継者の演技を観ることができる。

この劇は、唐代の名将薛仁貴とその一族を描く「薛家将」ものの一つである。老臣・徐策は、奸臣の謀計で滅亡寸前となった薛家の者が、捲土重来を期して挙兵する様を城壁から眺め、歓喜して城壁を駆け下りる。途中、足がもつれ尻餅をつくが、自ら老いを楽しむように、快活な笑い声をたてる。

老臣が全身で興奮を表現する姿を鑑賞する芝居だが、筆者がいちばん好きなのは、「高抜子」（曲牌の一つ）冒頭の「湛湛青天不可欺、是非善悪人尽知」という歌詞を、徐策が朗々と歌い上げるところである。この歳になると、職場でトラブルに立ち会う機会も多い。そんな時は、脳内の徐策に力強く「湛湛青天」とうたってもらい、気持ちを奮い立たせることにしている。（ふじの なおこ・関西学院大学教授）

1961 年に映像化された『徐策跑城』より

中国の山旅（13）
西谷 仁

敦煌は西安からのシルクロードの砂漠の入口のオアシス都市で昔から仏教で栄え莫高窟など貴重な遺跡が残っている。西田敏行の映画で有名である。莫高窟はたび重なる西洋や日本の探険隊の盗掘により貴重な物は大かた持ちさられたが、それでも貴重な文化財である。砂漠には風化した遺跡が点在している。砂丘はさらさらで、鳥取砂丘のしっとりした砂丘とは違い大変歩きずらい。

北京時間とは四時間の時差があり十時になっても明るい。現在の町は近代化されている。張掖から知りあった中国旅行者と一緒にまわった。

コロナ禍の台湾研究活動道中記（第21回）

自主待機期間（その5）

高橋孝治

鉄道博物館外観

二〇二二年四月頃、台湾で一週間の自主待機期間では、生活必需品購入が理由の場合、外出は可能となるので、特に生活に苦痛は感じませんでした。特に研究目的で台湾に行っていたので、荷物に入れていた資料を読み、自主的に研究を行っていればいいだけです。なので、この自主待機期間の詳細は省略し、一週間が経過しました。

ついに、自主待機期間も終了し、自由に台湾を移動することができます。しかし、入境して、自由に移動ができるようになったら、やらなければならないことがあります。ビザの更新です。台湾では、入境の際にビザを使っていても、半年以上滞在する場合には、台湾内で「滞在」のためのビザに切り替える必要があります。そこで、自主待機期間終了に伴い、台湾のバスや地下鉄など公共交通機関に乗れるようになったので、早速ビザの手続きをするために、「移民署」に行きました。しかし、その日は四月五日で清明節で移民署はお休みでした。

しかし、移民署に行くために台北市の中心部まで来たので、移民署がお休みだったからといってそれだけで帰るのはつまらないです。そこで、当時、台北で開館しばかりという国立台湾博物館鉄道部パーク（鉄道博物館）に行きました。鉄道博物館は、台湾の鉄道史が全て分かるという博物館で、日本でも鉄道ファンからは非常に注目を浴びている施設です。鉄道博物館の展示は、日本統治時代の鉄道から最新の台湾の鉄道までが本当に全て展示されており、圧巻でした。鉄道が好きでなくても、台湾に興味のある方は、台湾の歴史を鉄道の視点から見るという点で鉄道博物館は一回行ってみることをオススメします。また、台湾に行けない人も、鉄道ファンをはじめ多くの人から注目を受けている博物館であるため、インターネットで検索すると多くの方が紹介ブログなどを書いているため、これを見るだけでも気分が味わえるかと思います。（続く）

国立台湾博物館鉄道部パーク
場所：台北市延平北路一段二号
休館日：月曜日
開館時間：9時～17時
入館料：100台湾ドル
ウェブサイト https://www.ntm.gov.tw/jp/

※本文で「移民署」に行ったと書きましたが、本当は「外交部ビザセンター」に行くべきでした。行く先を間違えた理由もいろいろありました。次号以降その理由が明らかになるでしょう。

（二〇二二年台湾フェローシップ採択者／（元）台湾・淡江大学 日本政経研究所 訪問研究員（二〇二二年）／「高橋孝治 中国」でウェブを検索！

満蒙開拓平和祈念館を訪れて

清水　郁子

十二月二日・三日に「平和のための博物館・市民ネットワーク」の全国交流会が長野県下伊那郡阿智村にある「満蒙開拓平和祈念館」で開催されました。今回は集会の報告ではなく、記念館について紹介したいと思います。

「満蒙開拓平和祈念館」は二〇〇六年に飯田日中友好協会の定期大会で開設が確認され、阿智村から土地の無償提供を受け、公的な補助金も受けて二〇一三年に開館しました。展示は満蒙開拓の歴史から始まり、満州での生活の様子、引き揚げの様子、そして引き揚げ者の証言と続きます。これらの展示を通して、戦争の悲惨さ、平和の尊さ・平和創造という館のメッセージが伝わってきます。

心に残った証言を紹介します。

【逃避行】・・・そうしとるうちに、もう行けないって川に子どもを捨てちゃう人がでてきた。もうどうしようもないもんで、子どもを流したんです。私も七人くらいまで流れていくのを見たんだけど、止めてやることもできん、助けてやることもできない。

【収容所から中国人の家へ】　日本人は米を食べるので米のご飯食べさせようってな、食べさせてくれたに、我々だけにな。うれしかったよ。

展示の最後には「未来に向かって」のメッセージが来館者の心に語りかけます。

あの時代に問いかけてみます。
なぜ「満州」へ行ったのですか。
今を生きるあなたに問いかけてみます。
あの時代に生きていたら、どうしますか。
（中略）
歴史を学び、今を見つめ、未来をつくる。
同じ過ちをくりかえさないために。
平和な社会を築くために。

戦争をしてはいけないのは当たり前なのですが、それでも戦争は起こるのですが、大切なことは、過去になぜあのような戦争が起こったのかの歴史を真摯に受け止め、その原因を繰り返さないことが大切だと感じました。そして、私たち日本人が中国大陸で中国の人々に対して行った加害の事実、戦後中国に残された孤児たちが帰国した後の生活苦、これらに対する真摯な補償も大切です。

満蒙開拓の歴史を学び、改めて日中友好協会の取組の意義を感じました。

好吃！·京都の美味しい中華料理屋さん

餃子と煮込み【魚屋鮨しん】

「餃子定食」が美味しくて、何度も何度も食べに行ってしまいます♡
　お隣のお寿司屋さんのお寿司も頼めるそうですよ。

京都市下京区四条室町東入函谷鉾町 78 番
SUINA 室町 1F（旧シルクホール）

（N）

◆追悼　渡辺哲司弁護士◆
事務所移転の際の交渉で私たちを支えてくれました

「弁護士の弁護士たる所以は、その戦闘性にある」。その人の事務所には鮮やかな墨蹟の額が掛かっていた。そこで初めてお会いした印象が烈々たる扁額の言葉とは正反対と言ってもよい小柄で温厚な紳士であったので余計にそのギャップが感じられた。

日中京都府連の会員で渡辺哲司弁護士を知る人はほとんどいないだろう。しかし長く事務所を置いた「オクムラビル」の二階フロアー が「渡辺・玉村法律事務所」であったことを記憶している人は案外多いのではないか。

二二年十二月二日に亡くなられたことを、「自由法曹団京都支部　六十年記念誌」（二三年十二月二日発行）に載った弁護士仲間の加藤秀則氏の一文（「渡辺哲司さんを偲んで」）で初めて知った。

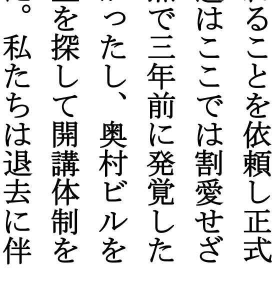
加藤氏によれば実際には渡辺さんの弁護士人生はその墨蹟の言葉のように「戦闘的」だった。一九四二年、新潟県燕市に生まれる。六一年、県立三条高校を卒業、同年、京都大学法学部入学。六六年、司法試験合格、司法研修所修習生を経て、六九年に弁護士登録。所属した京都第一法律事務所では労働争議を支援し、争議をめぐる裁判で精力的に弁護活動をつづけた。京都自動車教習所労組、国労ストライキ、在日朝鮮人の人権擁護など手掛けた裁判ではほとんど勝訴を勝ち取ったという。大言壮語せず、粘り強くたたかうのが渡辺流だった。

日中京都府連事務所の退去話が持ち上がったのは二〇一六年秋のことだった。オクムラビルが東京の不動産会社であるアセットリード社に買収され、アセット社が賃借人に対してビル機能の刷新・高度化のために一時ないし永久的な退去を求めてきたことにはじまる。自らも賃借人の一人である渡辺さんの動きは素速くて、一六年の暮れには賃借人全員で「対策チーム」を立ち上げ、結束して対処することを確認した。私たちは渡辺弁護士にリーダーとしてアセット社との交渉にあたってくれることを依頼し正式な契約を結んだ。その後の経過はここでは割愛せざるを得ないが、府連はこの時点で三年前に発覚した財政危機から脱却してはいなかったし、奥村ビルを退去した後に新たに中国語教室を探して開講体制を整えることも焦眉の課題だった。私たちは退去に伴う損失と費用、新たな事務所を設置するに要する費用を計算し、アセット社と交渉を続けた。渡辺さんは交渉の場に同席し、また交渉に関わる細かなアドバイスをしてくれた。結局、移転に伴って二百数十万円の退去料を勝ち取ることができた。これは府連にとって貴重な運営資金になった。

一年余りの交渉を経て、すべての賃借人の身の振り方を確認した後、渡辺さんの事務所も移転した。思い返せばこうした一連のプロセスの中にも渡辺弁護士の「粘り強い戦闘性」はよく発揮されていた。

感謝とともに、心からのご冥福をお祈りしたい。

（斎藤敏康）



书呆子　（中国語で「本の虫」という意味）

「このままでは飢える！」鈴木宣弘（東京大学大学院教授）・講談社・2023年

十月三十日刊・229Ｐ。サブタイトル：食糧危機への処方箋　「野田モデル」が日本を救う、とあります。表の帯：いま、日本に必要なのは武器より農業だ。

「食料自給率38%」のウソに騙されてはいけない。世界で真っ先に飢える国は日本　鋭く著者が緊急提言！全国民必読の書　和歌山発の「野田モデル」こそが日本農業再生の道を拓く！とあります。裏の帯：序章　日本から「食べ物」が消える！食糧危機と飢えの予兆　第一章自給率38%は幻の数値に過ぎない以下（「飢え」対策がチグハグな日本の農政）（和歌山にあった農業の未来と希望）（「野田モデル」がつくる日本の「シン・農業」）（野田忠はなぜ革命を起こせたのか）（「野田モデル」で日本の農業は甦る）はじめに農業崩壊は、国民の命の危機そのもの（以下1～7Ｐより）……日本国民の命は、これまでも、これからもずっと輸入が続くことが前提の「砂上の楼閣」の中にあるのだ。国内生産基盤の増強が不可欠だが、増強どころか弱体化が加速している。……なぜ農産物は「価格転嫁」ができないのか。仲卸業者さんがその理由を端的に話してくれた。「農家さんに払う価格がどう決まるかというと、大手の小売店がいくらで売るかなのだ。それが決められて、仲卸さんはこの値段で逆算して買ってきてねと言われる。悪いけれども、農家さんのコストは殆ど関係ないのです。」……

今がまさに分水嶺だと思う。……生産者にとっては一筋の光明ともいえる農産物流通の新しい形が生まれている。……農産物直売所である。……不可能を見事に克服したのが「株式会社プラス」が和歌山

県を中心に展開する農産物直売所「産直市場よってって」だ。……この「野田モデル」においては、出店生産者の販売高が約一億円というケースも生まれ、それ以外にも1000万円を超える出店生産者が257人に増大している。……「直売所の多店舗化で農業の崩壊を食い止める」……「売り手よし・買い手良し・世間良し」の「三方良し」に「社員良し」を加えた「四方良し」を掲げて社員の幸福にも配慮することの大切さを強調している。それと同時に和歌山県が地元の市に寄付を行い、それに基づく県や市の就農支援事業の拡充も促している。……「直売所革命」と呼べる「野田モデル」の全国展開は……日本農業と食の未来を創る大きな力になると確信する。……この取り組みに学び、また、それを消費者として支えることで、日本農業に希望の光を見だすことができるはずだ。

大きい活字で、間隔もあり、読み易く、統計の裏づけもしっかりあります。

大学で「農業経済ゼミ」であった私にとって、やっと希望の光と受け止めました。

（中本学）

◆お詫び・その１

2024カレンダー「中国の旅」たくさんの方にお買い求めいただき、誠にありがとうございます。しかしながら、日付にミスがありました。6月23日（日）が24日になって、24日が2つあります。本来ならば訂正したものに差し替えてお届けすべきですが、経費的に不可能な為、ご容赦ください。申し訳ございません。（事務局）

◆お詫び　その２

先月号「府連版」にCCTVの楊紅霞（ヤン・ホンシャ）記者のメッセージを掲載しましたが、写真は東京支局長の可欣蕾（カ・シンライ）様でした。お詫びの上、訂正いたします。（編集部）

あけましておめでとうございます。今年は多くの会員を迎える年にしましょう。

京都府連は、2023年4月には249人（会員148人・準会員（読者）101人）でしたが、年末に232人（会員143人・準会員88人）に減少しました。退会の理由としては、ご逝去された方、高齢で新聞が読めなくなったのなどの理由（つまり「自然減」といえます）以外に、“新聞読まない。今までは何気に会費払っていたが、その（経済的な）余裕が無くなった”という方もあります。どの組織も直面している“高齢化”は、おおいに憂慮するべき点ですし、物価高騰の昨今、文化への支出を削らないと生活できない！ということになれば、まず、日本中国友好協会やめようかな…となってしまうということでしょうか。中国は身近ではないんですね。

また、日本社会では、中国が脅威だと言われており、そこから生まれる嫌悪感が、人々の中国離れを引き起こしているようにも感じます。（私自身も近しい人に“なんでそんな事してんの！やめとき！”とよく言われます）。確かに、両国間には、様々な紛争・緊張・対立があるのは事実です。そんな中で新しい会員を迎えるのは困難ですが、今大切な事は、中国は大切な隣人であり、日中両国民が平和と友好のために協力する事が、東アジアと世界に、「平和と発展」を導くということです。その要になるのが「日本中国友好協会」であり、今こそ出番です。今の中国と日本を知らせる「日中友好新聞」を、読みやすくわかりやすいものにするために、みなさんのご意見をお寄せください。また、コロナ禍で中断していた講演会や文化イベントを再開させ、「日中友好協会」を知ってもらう機会を作り、新しい会員を迎えましょう。

会費・新聞代は活動の基礎となるものです。また、会員が減少すれば、活動の担い手も確保出来なくなり、その弱体化が生じかねません。理事・常任理事・事務局も努力しておりますが、まずは会員皆様のお力が必要となります。周りの方に是非「日中友好協会・新聞」を勧めて下さい。よろしくお願いいたします。

◆年末年始のお知らせ◆

事務所の閉室は　２０２３・１２・２６（火）～２０２４・０１・０４（木）　です。
中国語は、０１・１２（金）のクラスから始まります。

事務局長　向田美智子